

街を行く

第30回 甲府 Koufu

ほうとうを食べ損ないました

じつは小生、甲府の街を訪ねるのは初めて。今後もご縁がと「武田神社」へお参りしました。言うまでもなく信玄公をお祀りしたもので、敷地内には館(天守閣を持たない平らな建物)躑躅ヶ崎館跡があります。この場所を起点に甲府駅までまっ直ぐ道路が整備されており、今でも信玄公が街を統治しているかのよう。周辺は人々が近く催される信玄祭りの準備に追われていました。

日本のふるくからある大きな街は、もともと城下町、宿場町、門前町があった場所として、街の中核は何だったかがはっきりしています。小生が出張でよく行く地方の県庁所在地は、城下町だった場所が多く、甲府もそのうちの一つです。今でもかつての都市計画の名残がそれなりにみられるのですが、他とちょっと変わっているのは、街の中心が徳川家康によって築かれた舞鶴城ではなく、武田家の館が中心となっているところです。当然ながら舞鶴城築城は武田家滅亡後のことなのに、面白いですよ。

JR甲府駅は、新宿から特急で1時間15分。松本に至る中央線の中継地または終点としてかなりの本数の特急が運行し、想像したよりもアクセスは良く便利です。これが車であると中央道はいつも混みますからね。

街なかを眺めてみると、比較的コンパクトなつくりで、初めての来街者にもわかりやすく好印象ですが、街の中心には(地方都市でおなじみの)大きい建物がドンと鎮座しています。地方経済活性化にハコモノ建設が手っ取り早いのは解りますが大丈夫



信玄公の像



城から見下ろした甲府の街並み。コンパクトで好印象だが、何か独自性が欲しい地方都市だ

なのでしょうか？ 地方でこうした建物をみてしまうと、それだけで独自の生き残り策はないのだろうなと想像してしまいます。国の戦略にかからない地域にある、ありきたりの金太郎館的な街。そうした街はいずれ似たもの同士でみな廃れていくのが関の山ですよ。欧米等では、小さな地方都市がそれぞれ特色を活かした街づくりを進め、住民たちもそれに楽しんで参加しているのに、日本ではなぜそれができないのでしょうか。どうやら街の政策に自由があまりなくて方向性がつかないから、というのが理由の一つのようです。甲府が独自性のある街だと、また訪れたいくなりますよね。今のところ「信玄公」に「ほうとう」は思い浮かぶのですが、街そのものの特徴はイメージできません。世界遺産に日本の

街が沢山登録されるくらいになりたいですね。それには街の顔づくりが第一歩です。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」
http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro